

重点目標 (めざす姿)	具体的方策	主担当	【評価指標】 <成果指標><努力指標> <満足度指標>	【評価の根拠】 達成度判断基準	取組状況と今後の改善策	評価	学校関係者 評価者 による意見
（教師力を組織的な学校運営を高める）	① 気づきを大切に、的確な「報告・連絡・相談」をする。	運営委員会（教頭）	【努力指標】 管理職、校務分掌、学年での「報告・連絡・相談」を密にし、協力して課題解決に対応する。	【教職員アンケート】 ・気づきを大切に、的確な「報告・連絡・相談」をしている。 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	肯定的な回答は一学期同様9割を超えており、全体的に適切な報告ができています。校務DXも進み、チャットの活用では場所を選ばず、教室と職員室等離れた場所でもリアルタイムに生徒に関する情報共有ができています。紙から電子資料への変更は賛否があるものの、同一資料の共同編集や印刷の手間が減る点では恩恵が大きい。ただし、率的で有意義な職員会議の運営については課題が残る。	A	報告・連絡・相談の適切さと時間外勤務の削減傾向を評価します。一方で、一部の職員への業務偏重を解消するため、個人の努力に頼らない組織的な分担や仕組みの見直しを求めます。特に長時間勤務の要因を分析し、残業の常態化を防ぐ具体的な改善案を提示してください。
	② 働き方の見直しを進める。	運営委員会（教頭）	【努力指標】 月2回以上の定時退校を設定、業務の平準化、平日部活動の時間短縮等に取り組み、時間外勤務時間を短縮する。	【時間外勤務時間調査】 ・時間外勤務時間が月80時間を超えないように勤務している。 A 100% B 90%以上 C 80%以上 D 70%以上	職員の時間外勤務削減の意識は概ね高く、早く帰ることを心掛けている。一学期よりも80時間超えの職員は減少しているが、各業務の主担当の方などの帰宅が遅くなる傾向が依然として見られるため、今後も継続して業務改善に努める必要がある。 ＜月80時間を超えない職員＞ 二学期 90.6% ＜時間外勤務80時間以上＞ 9月(4名)、10月(2名)、11月(3名)、12月(1名)	B	また、生徒の「自己指導能力」の育成に向け、校内研修を充実させ、生徒が自らの生き方に向き合い自己実現を図れるよう支援の方向性を検討してください。
	③ 生徒の「自己指導能力」を育成する。	生徒指導（泉）	【努力指標】 生徒指導の4つの視点を意識した実践を重ね、「自己指導能力」の育成を目指す。	【教職員アンケート】 ・生徒指導の4つの視点を意識し、「自己指導能力」を育むことができた。 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	「そう思う」が24%、「どちらかと言えばそう思う」が56%で肯定的な回答は8割を超えた。しかし、7月と比べると12%減少している。夏季校内研修を行い、1学期を踏まえて具体的な自己指導能力の獲得について検討したが、職員全体の意識につながらなかった可能性がある。校内研修の方法を検討し、改善していく。	B	
（自ら進んで学ぶ生徒）	① 生徒が主体的に課題解決に向かえるようにする。	研究（斉田）	【満足度指標】 課題解決の目的を明示したり、生徒が教科の見方・考え方を働かせることができるように指示を明確にしたり、生徒の考えや学習状況を参照できるようにしたりすることを通じて、生徒が試行錯誤して学ぶことができる授業準備を行う。	【生徒アンケート】 ・授業では、学習課題や学習の目的をつかみ、いろいろな方法や視点から試行錯誤して課題解決に向かえることができた。 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満 【教職員アンケート】 ・授業では、生徒が試行錯誤して学ぶことができるよう、学習の目的を明示したり、見方・考え方が働くよう指示を明確にしたり、GIGA環境を活用して簡潔に指示・説明している。 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	肯定的な回答の割合は生徒では88.5%、教師では80.0%であった。また、最も肯定的な回答の割合は生徒が36.3%、教師が48.0%で、1学期に比べると、若干ではあるが、学習の目的や課題解決の見直しなどをつかんで学習に取り組んでいる生徒の割合が増加したと考えられる。学習の目的を生徒と教師が共有することは、生徒が試行錯誤しながら課題解決して授業づくりには欠かせない大切な要素の一つである。GIGA環境を効果的に活用していく中で、学習課題の提示方法や具体的な発問のしかたなどについても、引き続き教科ごとに研鑽を深めていく。	B	端末の活用により生徒の肯定的な回答が90%を超えている点は、学習への意欲を高める素晴らしい成果であり、この意欲を確かな学力向上へと繋げていくことを期待します。一方で、各項目において生徒の実感には伸びているものの、教師側が捉えている実感との間には依然としてギャップが見受けられます。今後は、教科間で取り組みの格差についても検証が必要です。また、アンケート結果において「授業での目的明示やGIGA環境を活用した指示・説明」に対し、否定的な回答が以前より微増している点は注視すべき課題です。生徒が試行錯誤して学べる環境をより盤石なものにするため、指導方法の再点検を含め、生徒の主体的な課題解決を促す質の高い授業展開を継続してください。
	② 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実させる。	研究（斉田）	【満足度指標】 生徒に自分の考えを表出させ、育成すべき資質・能力に沿って生徒の学習状況を見取ることを通じて、具体的な支援を行い、目標達成につなげる。	【生徒アンケート】 ・授業では、Chromebookのアプリやクラウドを効果的に活用して、友達と意見を交流したり、先生からアドバイスをもってもらいながら、課題解決しようとするのができた。 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満 【教職員アンケート】 ・GIGA環境を活用して、生徒の学習状況を見取り、生徒と生徒をつないだり、個別に支援したりしている。 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	肯定的な回答の割合は生徒では93.2%、教師では76.0%であり、1学期よりも数値が向上している。また、最も肯定的な回答の割合は生徒が56.6%、教師が40.0%と、1学期に比べると、特に生徒の教員が著しく改善している。リーディングDXの公開授業や校内研修会を通じた、授業でのGIGA環境の活用に関する取り組みが有効に働いた結果と捉えることができる。GIGA環境を活用して生徒の思考を可視化することは、生徒の学習状況を適切に見取っていくことや個別に応じた支援につながるだけでなく、授業改善のための教師への最良のフィードバックになる。今後も引き続き、学校研究の大きな柱の一つとして、教科の枠を越えて取り組みを継続していく。	B	
	③ 視点を明確にしてアウトプットさせる。	研究（斉田）	【満足度指標】 学習課題と整合した適切な形でのまとめ、本時の学びに合った振り返りを通して、必要な情報を抽出して考えを形成する力を育む。	【生徒アンケート】 ・授業では、課題に合うような形で、本時の学びをまとめたり、振り返りたりすることができた。（授業での学びを生かして、自分の考えを表現したり、作品をつくりたりすることができた。） A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満 【教職員アンケート】 ・授業の終末部分で、生徒が「課題に合った適切なまとめ、振り返りができるような手立てを」として、生徒の振り返りの記述内容を授業改善に活かしたりしている。 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	肯定的な回答の割合は生徒では93.2%、教師では84.0%と、一見すると高い満足度のように見えるが、最も肯定的な回答の割合は生徒では46.1%、教師では28.0%となっており、やや低調な結果となっている。授業の終末では、じっくりと本時の学びを言語化する時間を確保するために、引き続きGIGA環境を効果的に活用した授業づくりを継続していく。また、スプレッドシートを活用したまとめや振り返り、どの教科でも実践することができ、学びや自己変容を言語化していくことを毎時間積み重ねることができれば、生徒の力は確実に伸びていくと考えられる。学力向上との関連も強化しながら、教科の枠を越えた取り組みを実践していく余地がある。	B	
（明るく素直に振舞う生徒）	① 生徒指導・教育相談を充実させる。	生徒指導（泉）	【努力指標】【成果指標】 生徒指導や教育相談を充実させることで、年間の事案件数を減らす。	【生徒指導データ】 ・生徒指導事案（暴力・いじめ等）の発見と解決。 A 100% B 90%以上 C 80%以上 D 70%以上 【教育相談データ】 ・新たな不登校及び不登校傾向の生徒をつくらない。	【暴力認知件数10件】 【いじめ認知件数7件、うち解消6件 解消確認まで3カ月を要するため】 週1回の管理職と生徒指導担当者間での情報交換と教育相談会を通して、各学年及び個々の生徒の状況について、情報を共有し、今後の対応策や、トラブルを未然に防止するための方策などについて、話し合っている。また、chromebookを使っての月1回のいじめアンケート、個人面談も引き続き継続し、トラブルの未然防止につなげていきたい。	B	トラブルの未然防止に向けた週一回の情報共有や、タブレット端末を効果的に活用した取り組みは、生徒の安心・安全を守る先進的な試みとして高く評価します。また、道徳教育や地域と連携したキャリア教育を通じて、生徒に自己の成長や郷土の良さを実感させようとする姿勢も評価に値します。生徒指導・教育相談の面では、いじめ等の事案が「相談」の段階に留まることなく、確実に「解消」に向かうよう努めてほしい。被害生徒が真実に求めているのは「いじめそのものの消失」です。SNSへの告発といった二次被害を招かないためにも、学校や行政が一体となり、相談から解消へと結びつける実効性のある仕組みが構築できているか、今一度検討すべきです。今後は、各教育活動において生徒が自分自身の成長や地域の価値をより深く、肌で感じられるような主体的・実感的な工夫を継続し、教育の質のさらなる向上を期待しています。
	② 特別の教科道徳において、道徳的価値について考えを深める。	教務・研究（西田千）	【努力指標】 生徒が、効果的な振り返りを通して、道徳的価値についての自身の考えの深まりを実感できるようにする。	【教職員アンケート】 ・「わらうとする価値にせまるために、多面的・多角的な見方ができるような授業展開の工夫に努めている。 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満 【生徒アンケート】 ・道徳の授業では、友達との話し合いなどを通じて、課題について自分の考えを深めることができた。 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	【教87.6 生91.9】 教職員アンケートに関しては、前回7月と比べて下がっている。一方で「そう思う」の割合とどちらかといえば「そう思うない」の割合が増え、「どちらかといえばそう思う」の割合が減っている。生徒自身の考えの深まりを実感するためには、より一層効果的な振り返りが必要である。教材研究を通して、問や問い返しを精選し、またICTを効果的に活用した授業づくりにより一層取り組みが必要である。生徒アンケートに関しては、7月と比較し、肯定的な回答は下がっている。しかし、最も肯定的な回答である「そう思う」の割合が増え、生徒との話し合いを通じて、自身の考えを深められたと感じている生徒も多い。今後も自分と違う考えに触れることで深まりを実感する道徳の面白さを多くの生徒に実感させたい。	B	
	③ 郷土を愛する心を育成する。	教務・研究（本川）	【満足度指標】 地域と連携したキャリア教育やふるさと教育を計画的・効果的に実践する。	【教職員アンケート】 ・総合的な学習の時間等を活用し、生徒のキャリア発達を促したり、郷土を愛する心を育成したりする。 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満 【生徒アンケート】 ・「能美市・根上中の良いところを知っている」の結果 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	【教職員84.0%】【生：根上87.5%】【生：能71.9%】 総合的な学習の時間等を活用し、地域と連携したキャリア教育やふるさと教育に取り組んだ。教職員アンケートは84.0%（B評価）、生徒アンケートでは「根上の良い所を知っている」が87.5%（B評価）と一定の結果が見られた。一方、「能美市の良い所を知っている」は71.9%（C評価）にとどまり、市全体への理解を深める点に課題が残った。今後は、能美市全体に視野を広げた学習内容や振り返りを工夫するとともに、様々な活動を通して、根上や能美市の良さを実感できる活動内容となるよう改善し、郷土を愛する心の育成をより一層推進する。	B	
（強い身体をもつ生徒）	① 基礎体力を向上させる。	保健体育（泉）	【努力指標】 教科体育の充実や適正な部活動運営を通して、基礎体力の向上を図る。	【体力テスト】 ・2、3年生の体力テストにおいて、総合評価のA、Bが占める割合 A 60%以上 B 50%以上 C 40%以上 D 40%未満	【体力テスト 39.5%】 県平均との比較では、48項目中19項目は県平均を上回っていた。残りの29項目の向上が求められるが、特に握力、上体起こし、50m走においては全学年男女県平均を下回る結果となっている。保健体育授業の中で、この3種類の向上につながるトレーニングを重点的に行う。	C	歯科・眼科の受診率向上に向けた保護者への働きかけを重視し、生徒の自己管理能力を育むことを期待します。特に歯の健康は生涯の健康に直結するため、継続的な受診動機が必要である。体力面では、全学年で県平均を下回る項目があり、基礎体力の向上と運動習慣の確立が課題です。成果を上げている優良校の取組を積極的に取り入れてみてほしい。また、怪我をしない体づくりや質の高い睡眠・食事に関する啓発も、機会あることに実施してください。
	② 健康教育を充実させる。	保健環境（四間丁）	【満足度指標】 「睡眠」と「朝ごはん」を基盤として、歯科検診や眼科検診の結果を含め、生徒が年間を通して生活改善を意識できるようにする。	【生徒アンケート】 ・「毎日朝食を食べている」ができています。 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満 ・「睡眠時間の確保」ができています。 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満 【保健調査】 ・歯科検診、眼科検診後の受診状況 A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	【7月：朝94%、睡79.8%】【12月：朝91.9%、睡79.1%】 朝食を毎日食べている生徒は、「そう思う」もしくは「どちらかと言えばそう思う」の合計は2.1ポイント低下した。しかし、どの学年も「そう思う」と答える生徒が4.2ポイント上昇。特に3年生の上昇率が高く、給食完食率を合わせて寝ても部活動引退後も食生活を整えようとしていることが伺える。睡眠時間の確保については、7月調査よりも0.7ポイント下がった。3年生の受診率向上に向けたものと見られるが、昨年よりもポイントは高い。11月の学校保健委員会で睡眠に関する講話を全校で聴いた効果と予想される。 【歯科検診：29%、眼科検診：31%】 懇談会で保護者に直接受診を勧める案内を出した。現在受診中の生徒もいると考えられるので、今年度中に受診完了ができるように3学期にも案内を出していく。	C	
（コミュニティ・地域との連携）	① 学校運営協議会を充実させる。	教務（辻）	【満足度指標】 学校運営協議会を中心に、コミュニティスクール（CS）としての機能を推進し、家庭・地域との連携を強化する。	【保護者アンケート】 ・学校・保護者・地域が繋がって、生徒の成長を支えていると感じる（コミュニティスクールとの連携等）。 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満 【教職員アンケート】 ・学校運営協議会での話し合いを中心に、保護者や地域からの意見を、日々の教育に生かしている。 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	【保67.3%】【教84.0%】 学校運営協議会を核としたコミュニティスクール（CS）の取組を継続し、行事や地域人材の活用、情報発信の充実などを通して、家庭・地域との連携を進めてきた。その結果、保護者アンケートでは肯定的な回答が前期より約10%上昇し、CSの取組が保護者に一定程度浸透してきていることがうかがえる。一方で、教職員アンケートにおいては、肯定的な回答が前期より4%低下している。教職員全体で共有する仕組みをより明確にし、具体的に「どの取組に、どのように生かされたのか」が分かる形で整理・発信していく。また、協議会の内容を単なる情報共有にとどめず、学年・分掌等の実践につながる視点を意識した協議会を行うとともに、教職員がCSの意義や成果を実感できる機会を増やす。これにより、保護者・地域との連携の質をさらに高め、学校全体で生徒の成長を支える体制の充実を図っていく。	C	地域と連携した生徒を支える真摯な姿勢を高く評価します。現状、学校と地域の双方に関わる機会がまだ少ないことが課題と思われませんが、今後は学校運営協議会（CS）の存在を広く周知し、町内会行事等への積極的な参加を通じて、互いに協力し合える実効性のある仕組みを構築してください。こうした交流が、数値化しにくい生徒の豊かな成長や、隠れた貢献（清掃活動で見せる意欲な一面など）への気づきにつながることが期待されます。また、ホームページは非常に活用されていますが、保護者が即座に情報へ辿り着けるよう向上を求めます。あわせて、地域人材の活用状況や生徒の活動の様子を、目で見て引き起こす具体的な発信をしてください。活動のプロセスを可視化することで、保護者や地域の理解と納得度をさらに高める工夫を継続してください。
	② 積極的な情報公開と社会貢献を展開する。	教務（辻）	【成果指標】 ホームページ等での情報発信につとめ、学校教育活動に対する家庭・地域からの理解を深められるようにする。 【努力指標】 学校教育活動全体を通して、社会に奉仕しようとする態度を育成する。	【保護者アンケート】 ・生徒の学校での活動の様子を知るために、学校ホームページを定期的に閲覧している。 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満 【生徒アンケート】 ・「そうしている」「あいさつができる」「保活動に取り組んでいる」の結果。 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	【保36.6%】【生：揃91.9%、係93.9%、接82.0%】 学校ホームページ等を活用し、行事や授業の様子、生徒の活動を中心とした情報発信に努めてきたが、保護者アンケートにおける肯定的な回答は、7月から12月にかけてやや低下した。 また、生徒アンケートでは、社会に奉仕しようとする態度に関する項目について、全体として高い水準を維持しているものの、中間と比べると肯定的な回答が減少しており、日常的な意識づけや継続的な指導の重要性が課題として見えてきた。ホームページについては、更新内容や時期を整理し、学習活動や生徒の成長が具体的に伝わる情報発信を行うとともに、保護者が閲覧しやすい工夫を進め、家庭・地域からの理解と関心を高める。 また、清掃やあいさつ、係活動については、単なる習慣として行うのではなく、その意義や社会に貢献する姿勢を学年で改めて確認し、日常の指導や振り返りに可視化することで、保護者や地域の理解と納得度をさらに高める工夫を継続していく。	B	